



健康一口メモ

仙台市医師会  
広報委員  
川村 和久

新型コロナウイルス感染症(以下COVID-19)は緊急事態宣言により一旦落ち着きかけてきましたが、解除後再び増加傾向を示し第二波襲来が危惧されています。政府から「新しい生活様式」の実践例が示され、感染予防策の継続が求められています。「一人ひとりの基本的感染対策」「日常生活を営む上での基本的生活様式」「日常生活の各場面別の生活様式」「働き方の新しいスタイル」の4項目に分けられた実践例の詳細は、厚生労働省ホームページ(HIP)を参考にしてください。



厚生労働省HIP

「新しい生活様式」の基本は「一人ひとりの基本的感染対策」であり、身体的距離の確保、マスクの着用、手洗いです。大人では簡単そうでも、子どもにとってはなかなか難しいことです。くっついて遊ぶ本能の乳幼児に、近づくなと言っても聞きません。無理無理引き離せば泣かれてしまう。マスクをしつかり付けられないどころか、邪魔になれば汚れたマスクを投げ出してしまふなど、見ている方がストレスになってしまいます。日本小児科医

## 「新しい生活様式」と子ども

会からは、呼吸をしにくくさせ心臓への負担がかかり、マスクや嘔吐物による窒息のリスクや、熱がこもり熱中症になるリスクがあるという理由で、「2歳未満の子どもにもマスクは不要、むしろ危険!」との宣言が出されています。小児科医としては児童生徒も同様に、感染リスクの少ない条件下であれば、運動中は心肺への負担を考慮してマスクは不要と考えています。また、授業中のフェースシールド、水泳用マスク、冷感マスク、空間除菌などの中には、現時点で有効性が確認されていないものや、身体への影響が懸念されるものが含まれている可能性があります。子どもが感染することは少なく、ほとんどが家族や大人からの感染であることもわかってきました。COVID-19から子どもたちを守るには、大人が率先して「新しい生活様式」を実践するだけでなく、感染予防防の意味を理解し、子どもに合わせた対策を選択することが必要でしょう。

／かわむらこどもクリニック  
／青葉区高松



[2020年7月2日 執筆]

50th ミヤテレビ

Thanks 25th

ハピデス

毎週月～金曜 午後3:50から  
宮城の最旬情報発信中!